



TICA

—NEWS—

Vol.58 秋号

発行
富山市民国際交流協会
広報委員会

〒930-0002 富山市新富町一丁目2-3
CiCビル3F 富山市国際交流センター内
TEL (076) 444-0642 FAX (076) 444-0643
発行責任者 広報委員会委員長 岡田昌代

多国言語文化交流クラス

毎月第1土曜日 13:30~15:00

世界では、たくさんの人々がたくさんの言語を使って生活しています。それぞれの国の言葉を教わって各国の文化に触れてみませんか。

(本文はP 2 に記載)

ボリビア&スペイン語・ケチュア語
PETER LOPEZ さん



パキスタン&ウルドゥー語
SYED FAISAL HAIDER さん 夫妻
KANWAL AHMED さん



終了プログラム (H.12.6~)

エジプトアラビア語・ヘブライ語&イディッシュ語・タイ語・ハンガリー語・チェコ語・インドネシア語・スワヒリ語・広東語・ゾンカ語(ブータン)・ブラジルポルトガル語・モンゴル語・シンハラ語(スリランカ語)・ドイツ語(オーストリア)・ハングル(韓国)・新疆ウイグル語・スペイン語(メキシコ)・フィンランド語・ベンガル語・オランダ語・フランス語・ミャンマー語・ベトナム語・ウルドゥー語・アラビア語(サウジアラビア)・ヒンディー&テレブ語・リンガラ語(コンゴ民主共和国)・フィリピン語・ラオス語・ブルガリア語・トルコ語・スペイン語(ブエルトルコ)・イタリア語・スロバキア語・タミール語(インド)・スペイン語(アルゼンチン)・エジプトアラビア語・セルビア語・アイルランド語・(トルコ語)・チェコ語・ブルガリア語・ルーマニア語・マレー語・ドイツ語(ドイツ)・ポルトガル語(モザンビーク)・インドネシア語・上海語・ウズベク語・モルドバ語・スペイン語(メキシコ)・中国語・ミャンマー語・ベンガル語・スロバキア語・スペイン語(ペルー)・フィリピン語・ドイツ語(オーストリア)・ネパール語(ネパール)・ウォルフ語(セネガル)・オランダ語・パラオ語・ハンガリー語・ウルドゥー語(パキスタン)・スペイン語&ケチュア語(ボリビア)

ボランティアで育てよう 富山市民国際交流協会

多国言語文化交流クラス

パキスタン&ウルドゥー語

7月7日

講師 ファイサル・ハイダル氏（富山大学大学院留学生）

パキスタン・イスラム共和国は、南アジアに位置する多言語社会でウルドゥー語が国語、英語は公用語として用いられていますが、最も多く使用されているのはパンジャービー語です。他に、シンディー語、パシュトー語、バローチ語などの言語も使用されています。ウルドゥー語で「パキスタン」は、美しい（パキ）国（スタン）の意味だそうです。

パキスタン最大の都市カラチ出身のファイサル・ハイダルさん、カンワル・エヘメドさんご夫妻は、共に癌の研究のために日本に来ているそうです。この日は、綺麗な民族衣装シャルワール（ズボン）、カミーズ（シャツ）、ドゥパタ（女性のストール）を着て、珍しいトロピカルフルーツジュース、お祝の席で出される美味しい食べ物など色々と準備して参加者を歓待して下さいました。

パワーポイントを駆使しながら、かつてインダス文明が栄えた地で、モヘンジョ・ダロ遺跡などのことや、イスラム教を国教としており、1日5回の礼拝・豚肉を食べない・飲酒しないこと、それからおいしい食物のことなど、次から次へと興味深い話に聴衆は、知的好奇心を満たされました。

ボリビア&スペイン語・ケチュア語

9月1日

講師 Peter Lopez氏（南砺市福光在住）

ボリビア共和国は、南米大陸の真ん中に位置し、地理は寒冷な気候を持つアンデス山脈の地域（アルティプレーノ）、アマゾンの熱帯地域（リャノ）、その中間に位置し、温暖な地域（バジェ）と大きく3つに分けられます。

言語はスペイン語、ケチュア語、アイマラ語、グアラニー語が公用語です。

ボリビアでは、記念日、誕生日、お祝い事は必ず音楽やダンスで、楽しい時間を家族や友達と過ごすそうです。南米三大祭の一つと言われるカルナバル（カーニバル）では、受け継がれて来た伝統と習俗に加え、趣向を凝らした衣装やそれぞれ個性のある音楽とダンスで楽しむそうです。

ピテルさんは、ボリビアの洋服や楽器などを展示して、パワーポイントで映像を使って説明し、また、伝統的な衣装を着て「コンドルが飛んで行く」を演奏した後に、めずらしい楽器にもふれさせてもらいました。

ディスカバー富山

9月30日

富山在住の外国の人たちと当協会のメンバーは、バスで近郊の名所や文化施設などを訪ね、その文化認識を深めました。

コース：五百羅漢、座禅体験（長慶寺）、民俗民芸村、富山市国際交流センター

ALT交流会

8月28日 当センター

新たに、小・中学校や高校に赴任した英語指導助手（Assistant Language Teacher）や英語国際交流員（Coordinator for International Relations）と会員らの交流会が開催されました。

今年は、制度変更もあって新しく赴任したALTの参加が少なかったため、CIRや富山在住の外国の人たちも一緒に参加して、会員手作りの料理を囲み楽しく交流しました。

英語スピーチと討論の会(ESD)

7月例会 7月10日 18:30~20:00

テーマ 「Life in TOYAMA」

スピーカー Dan Sinawat氏（英語国際交流員）

ダン氏は、米国のニューヨークで生まれて、タイ王国で育ち、オレゴン州に移り住み、そして、国際交流員として富山にいられました。

夜空に咲いては散っていくきれいな花火を見物して、度肝を抜かれる思いで、すっかり花火大会にはまってしまい、大阪までへも行ききました。海岸でビールを飲む。楽しい！米国は、外ではビールも煙草も禁止です。その国の文化を理解しながら楽しむことは大切な事です。日本語には、隠されたメッセージがあるような気がします……。

ダンさんのやさしい人柄が滲み出たスピーチに参加者は聴き入りました。



9月例会 9月11日 18:30~20:00

テーマ 「Child Labor」

スピーカー 越谷 美和子氏（富山大学非常勤講師）

世界中で、2億4,600万人の子どもたちが、学校へも行けず、毎日過酷な労働に従事させられているという現実があります。そのような現実取材した「Stolen Childhoods」というビデオをみんなで見ただけで、越谷さんを中心に討議をしました。

最後には、子どもたちの心が健やかに育つために、親（特に母親？）はどうしたらいいのか？というようなところにまで議論がおよびました。



これらの講話・座談・討論などすべて英語で行なわれました。

第2回「高校生のための“通訳ガイド(英語)入門夏季集中講座”

この講座は、「通訳ガイド養成クラス」の夏季集中プロジェクトとして昨年に引き続き開催されました。

第1日目は、まず、単語や数字を聞いてすぐに日本語にする「クイックレスポンス」、英文を見ながら訳出する「サイトラ」という通訳トレーニングに挑戦し、その後、手作りの装置で同時通訳を体験しました。みんなは、とても上手で、プロのようでした。よかったです。

2日目は、富山駅の観光案内所という設定でロールプレイ練習をしました。布谷クリスティーナ（米国出身）さんが応援に来て、「お茶を体験したい」という外国人観光客になってもらって臨場感たっぷりの楽しい練習となりました。

講師たちは、「学校の英語学習ではあまり経験しない“通訳”や“観光ガイド”の体験を通して、英語に対する興味が広がったり、英語力アップの役に立てたらいい。また、他ではちょっと見られない（と自負する）このユニークな講座をもっと知ってもらって、多くの人たちに参加してもらえように行きたい」と。



8月6日~7日 当センター



ゆかた着付け教室

中国、ブラジル、ハンガリーなど富山在住の留学生や外国人23人が参加しました。ゆかたを着るのは初めてだと言う参加者は、ボランティア委員会の人たちから指導を受けながら真剣に何度も練習していました。ゆかたを着た姿を鏡に写して「かわいいね！」と満足気に大よろこびでした。ゆかたのたみ方も習いました。

ひきつづいて文化交流委員会の「おわら踊り教室」に参加しました。



7月29日
この行事は、初めての取り組みとしてボランティア委員会と協力して「ゆかたの着付け教室」と同日に開催しました。

“おわら” 踊り教室

「ゆかた着付け教室」を終えて、ひきつづき、ゆかた姿でおわら踊りの練習をしました。

最初は、手を上げたり、叩いたりから見よう見まねで動いていましたが、繰り返し練習を重ねて、額に汗が光る頃にはすっかりおわら踊りらしく踊れるようになっていました。

ゆかたの裾から、ジーンズやスニーカーが覗く如何にも滑稽な姿が、その場をもっと楽しくさせていました。

富山大学留学生ホームビジット

ホームビジットで広がる世界！

会員 久米 直子さん



7月28日、ヴェトナムと中国からの留学生を我が家に迎えました。私が楽しんでいるヒップファミリークラブの仲間も来て、皆でおしゃべりしたり、お茶を点てたり、子どもたちと折り紙をしたり、楽しく過ごしました。昼食は手巻き寿司

を作って食べました。準備や後片付けも進んで手伝ってくれ、お互いの生活や文化についていろいろ質問し合ったりしながら、改めて生活を振り返るようなことが多々ありました。

我が家は狭いながらも、このようなホームビジットやホームステイを通して世界中の人たちと仲よくなれ、視野が広がることをとても面白く楽しみにしています。

皆様も機会がありましたら、ぜひ気軽に受け入れをしてみて下さい。

外国人のための日常生活勉強会

9月3日 富山中央保健福祉センター

日本での日常生活の中で、困った事やわからない事などについて話し合いました。身近なところでは、県や市で作成されている「医療ガイド」や「ゴミの分別表」「生活情報ガイド」など、ガイドブックが役立っているようです。

外国人が日本での生活には、本人の努力はもちろんですが、家族や周りの人達の理解と協力が必要で大切なことです。

また、同センターの栄養士から「生活習慣病の予防」について、バランスの良い食生活、家族の健康を考えた食事が大切であることを学びました。

第23回 もっと知ろう世界の街

8月3日
当センター

「米国テキサス州 サンアントニオ」

講師 森 雅志 氏（富山市長）



この講座は、富山在住の外国の方々を講師に招いて、いろいろな国、その街を案内（紹介）してもらって生活や文化を通して旅心を楽しむものです。今回は、初めて日本人の講師を招いて、旅の中で訪れた街の案内をしてもらうこととしました。

町歩きが楽しいリバーウォーク「パセオ・デル・リオ」は、年間1,700万人以上の観光客が訪れるそうです。

パワーポイントでの映像は、美しい橋、花で飾った遊歩道。音楽・エンターテイメントで賑やかな川沿いには、ショッピングモール、レストラン、アパートが立ち並び、その一帯は絵を見るような景観です。ここまでは、長年に亘る都市計画に官民一体で並々ならぬ努力があったそうです。そして、自然と人工のバランス、古いものと新しいものの両立、土木・建築・観光の調和を真に現実のものとし、治水、利水、親水の歴史の都市となりました。

講師は、花と水辺の街を案内しながら、自らが体験された活きた事例観察をベースに将来の富山市を熱く参加者に伝え、それぞれが楽しい夢を思い描くひとときでした。

弾き語りミニコンサート＆ みんなでうたいましょう！

9月29日 とやま市民交流館

なつかしい“日本の歌”や、だれからでも親しまれている“千の風になって”などを、当委員会の中野順子さんのピアノ演奏と歌で楽しんだ後に、みんな“赤とんぼ”などを歌いました。

特別講演会「秦皇島市の現状」



9月7日 当センター

講師 劉 卓氏(秦皇島市商務局職員)

秦皇島市商務局から富山市へ行政研修に訪れている劉 卓さんを迎え、「秦皇島市の現状」について特別講演会が開催されました。

劉さんは、流暢な日本語で秦皇島市の地理、歴史、産業、教育、観光、交通などのほか、2008年北京オリンピックについてもくわしく説明をされ、秦皇島市に興味を持って参加した人たちは、新しい秦皇島市を深く理解することが出来ました。

30人余りの出席者からは次々と質問が続き、劉さんは月給1,160円で携帯電話を1,800円で買ったというエピソードもうちあけるなど、和やかに日中友好を深める有意義な会となりました。

姉妹友好都市委員会

平成19年度 第1回 日本語ボランティア登録者研修会

「日本語学習者の母語を知ろう」

～日本語と英語・中国語・韓国語との比較～

講師 原 和子さん 笹倉圭也さん
山崎真理子さん

ゲスト 劉 卓氏 金アミ氏

研修会には26人の参加がありました。笹倉さんの「50音表の中国語漢字表記」についての発表と、富山市の研修生 劉 卓氏と韓国からの留学生 金アミ氏から「外国人が日本語学習の中で難しいところ」について話していました。

日本語のテキストには、50音表(あいうえお表)のローマ字表記しか書いてありませんが、ハングル、タイ文字、キリル文字などの50音表記もあります。しかし、中国語の漢字の50音表記がなかったのです。そこで笹倉さんは、中国語の漢字表記の50音表を作成しました。すると「え段」と「お段」に発音する漢字のないものがあるということがわかり、「え段」には「ei」、「お段」には「ou」という近い音を当てた「50音表の中国語漢字表記」(笹

倉私案)を作った苦勞を発表されました。

続いて、金さんに、韓国語の発音の違いと発音の困難点(日本語の「つ」「ず」)について話してもらい、また、劉さんと笹倉さんは、中国語では「有気音」「無気音」の区別をするので、日本語の「た(無気音)」「だ(有気音)」などの区別が難しいということをお話されました。

日本語全体では、金さんは、日本語では受身を使うことが多く日本語の受身が難しいと、また、劉さんは、日本語の外来語が難しく否定表現が多いということでした。

日本語を教えるとき、学習者の母語は話せなくても、学習者の母語について知っている間違えやすいところなどを注意して教えることができます。日本語学習者の母語について考えるひとつのきっかけになったのではないのでしょうか。



7月21日 当センター

OWARA DANCE in TOYAMA

8月4日 城址大通り

第47回富山まつり「越中おわら踊り」に当協会も参加しました。今回は10回目となり、中国、ブラジル、ネパール、フィリピン、インドネシア、ミャンマー、ロシア、韓国、米国の9ヶ国22人の外国人と会員16人が参加しました。

浴衣や帯を選び、着替える時点から祭りの気分は盛り上がり、おにぎりや腹ごしらえをして城址大通りへ出発しました。おわら踊りで熱い汗を流して、異文化交流と思い出作りの真夏の一夜でした。



平成19年度 夏季日本語集中講座

今年で12年目となる恒例の「夏季日本語集中講座」は、8月20日～25日の日程で行なわれました。

ロシア、ボリビア、ペルーなど富山在住の外国の人たちが入門、初級、会話、中級の各クラスに分かれて受講しました。

24日は、「習字」と「消しゴムのはんこ作り」をしました。初めにそれぞれの名前を漢字に変換して、ロシアのディマさんは(出麻)に、しかし、パンチョさんやピテルさんのパピペボ音に当てはまる漢字が無いので、苦肉の策として漢字に丸をつけてパ行を作って楽しい漢字をそれぞれに当て、パンチョさん(判°丁)、ピテル

さん(日°照)としました。何度も練習をして色紙に書いて仕上げました。

次は、消しゴムにその名前をカッターナイフで彫り上げて「はんこ」の出来あがりです。篆刻の様にそれらしく出来あがったはんこを、名前を書いた色紙に落款すると、立派な作品が出来上がりました。

最後の日の作品発表会では、色紙に朱の落款も鮮やかな作品を披露して、皆さん満足そうな顔でした。



災害はいつ・どこで起るか予測がつきません

語学(災害)ボランティア養成講座(韓国語)

…順調にすすんでいます…

この講座も5回まで終了しました。

9月8日の第5回講座では、八木政徳氏(日本赤十字社富山県支部事業推進課長)を招いて「災害避難所における医療について」のテーマで「まず不安を和らげることが大切」など現場からの体験を通して話してもらいました。講演の後、講座アシスタントの穴戸公子さんから、これまでの講座の報告をいただきました。

5月から始まった語学(災害)ボランティア養成講座(韓国語)は9月8日の講座で第5回目となりました。受講生は約35名。韓国語の学習経験1年以上の人たちですが、災害時の通訳となると毎回、勉強することばかりです。富山県は幸いなことに災害があまり起こりませんから、住んでいる私たちも災害時の経験が無いどころか、災害に対する準備も皆無に近いです。また、受講している人たちが、日ごろ勉強している韓国語も旅行会話や日常会話が中心なので、「災害」という話題もほとんど出てきません。ですから講座では「地震」「洪水」などの単語を覚えることから勉強が始まりました。また、日本と違い韓国は岩盤が固いので、韓国人は学校や職場で「地震が来たらどうしよう」などと話し合った経験はないと聞きました。ですから、日本語(漢字語)の表現をそのまま韓国語に直しても通じないこともあるらしく、韓国人の講師の方々が、日頃、日本のテレビなどで見聞きしていることを韓国人に伝わりやすい形で、想定会話集を作成されました。9月8日の講座では、第4回に引き続き、災害時に被災者の要望に対応する想定会話の練習をしました。「家が壊れた」「パスポートが無い」「怪我をした」など、被災者と通訳とに分かれての会話練習です。最初は会話例で基本を覚え、次に「頭が痛い」→「おなかが痛い」など、応用練習もやってみました。第6回目の講座となる9月29日には富山市総合防災訓練に参加しますが、そこで実際に行う模擬訓練の練習にもなりました。

また、第5回目の講座は、富山赤十字の方が、中越沖や能登沖の地震時の話をされました。印象的だったのは「ボランティアの仕事は、壊れた家の片づけを手伝ったりするばかりではなく、被災者の話を聞くこともあります」という言葉です。日本人でさえ話し相手が必要なのです。ましてや外国に住んでいたら、その時その時の状況がしっかり判るように自分の国の言葉を話してくれるボランティアが居たらどんなに心強いかわかりません。また、赤十字の医師は海外へ行くことが多いとは言っても、その為に日ごろから外国語を積極的に学んでいるわけではない。外国人との間に入ってくれる通訳は必要であるとも話されました。私たち自身、まだ勉強を始めたばかりですし、そんなに難しいことは話せません。でも講師の方も『『どうしたの?』と声をかけるだけでも韓国人の不安は和らぐはず。』と言われました。勉強は覚えるものが多くて大変ですが、大好きな韓国語の勉強を通して、これから何か違うことが出来るかもしれません。毎回の講座が勉強のためのいい刺激を与えてくれています。

富山市総合防災訓練

…参加しました…

9月29日 大山総合グラウンド及び周辺

9月は防災月間にあたり、富山市では毎年、総合防災訓練を実施しています。当協会でも、平成17年度より「語学(災害)ボランティア養成講座(英語、中国語、韓国語)」を開催しており、災害時の避難外国人の対応訓練に参加しております。

今回も外国人ボランティアや会員らが参加して、それぞれ避難して来る外国人の受け入れや情報提供の訓練を英語、中国語、韓国語でしました。

また、避難所での外国語伝達表示シートも「避難場所」「避難場所は住所・性別・国籍・在留資格など関係なくどなたでもサービスを受けられます」「飲料水・食料・毛布があります」「通訳がいます」などほかを(やさしい日本語)(英語)(中国語)(ポルトガル語)(韓国語)(タガログ語)で見やすく掲示して、発災を想定した被災者対応訓練も体験しました。



… 谢谢 …

会うは別れの始め

刘 卓（秦皇島市事務局職員）



6月5日、関西空港から京都へ。京都は、とても好きな街で、古いものと新しいものとが混在しています。

6月7日、京都からJRで富山市に着きました。4ヵ月間富山市役所の職員の皆さんと富山市民の方々に素晴らしい時間を与えていただきました。富山市は中心市街地の人口が少なく、また一戸建てに住む人が多いので居住地も分散していて、車がないと生活できません。郊外型ショッピングセンターが流行るのは当然と感じました。

私にとって多くの興味深いことや一生忘れられない楽しいできごとがたくさんありました。東京へ行く時、JRでトンネルの中で地震にあいました。私は地震にあうのは初めてです。一番行ってみたかったディズニーランドに行きました。ディズニーランドは、永遠の人気があって、男の人から女の人まで、子供からお年寄りまで、様々な人達が訪れたい所としてあとをたたないのです。東京から帰った後、環境部門の人たちは、色んな所を案内したり、仕事を説明したりしてくれて、本当に勉強になりました。ありがとうございました。私の素晴らしい経験を秦皇島市の人たちに紹介することに楽しみにしています。

私は本当に幸運で、他の国に来て、普段できない経験をする機会がたくさんありました。富山市民国際交流協会でたくさんの素晴らしい人たちと出会えて、これからも良い関係が続けられることを願います。協会の人たちに立山、八尾のおわら、黒部峡谷などを案内してもらって、面白かったです。立山へ行った時、雨男でしたかもしれませんが、下山の時は雨に濡れました。八尾へ行った時、おわらの踊り方を習いました。黒部峡谷へ行った時、露天足風呂を経験しました。また、環日本海交流会館で日本の歴史、文化を勉強したのです。私は、改めて、先人の偉大さを感じました。

その他、ボランティアで活動に参加することもあります。こういうときは非常に有意義と感じました。

中国に是非来てください。そのとき、秦皇島市を案内します。でも皆さんが私に親切にしてくれたようにはできないと思います。是非来てください。

この4ヵ月間をとても楽しく過ごさせてくれた方々にお礼を言いたいと思います。お礼を言いたい人はたくさんいますが、ご縁があればまたどこかで会いましょう。

… 再见 …

お知らせ

お申し込み・お問合せは当協会まで
TEL 076(444)0642 FAX 076(444)0643

行 事	日 時	と ころ	担当委員会	参加費	対 象
海外研修	10月9日(火)～16日(火)	米国ダーラム市ほか	姉妹友好都市	約37万	会 員
国際交流フェスティバル2007	10月20日(土)～21日(日)	CiC及びCiC前広場	合同	—	—
茶道体験(国際交流フェスティバル2007)	10月21日(日) 10:00～16:00	当センター	文化交流	無料	外国人
国内研修 横浜国際フェスタ&（財）横浜市国際交流協会&かながわ国際交流財団	10月27日(土)夜～10月29日(月)	神奈川県横浜市方面	総務企画	23,000円(予定)	会 員
座禅体験	11月4日(日) 13:30～15:00	梅沢町海岸寺	文化交流	未定	外国人
料理教室(日本料理)(2)	11月5日(月) 10:30～13:30	富山市中央保健福祉センター	ボランティア	300円	外国人
多国言語文化交流クラス 「カメルーン&ヤンバ語・ティカリ語」 講師 Fantong Wilson Yetoh 氏	11月10日(土) 13:30～15:00	当センター	国際教養	200円	会 員
国際交流TCAカレッジ& 多文化共生ボランティア養成講座 講師 西村明夫氏(NPO法人多言語社会リソースかながわ(MICかながわ)プログラム・アドバイザー)	11月17日(土) 13:30～16:45	当センター	総務企画 & 合同	500円	会員・外国人
華道体験	12月2日(日) 13:30～15:00	未定	文化交流	未定	外国人
年忘れファミリーパーティ	12月9日(日) 13:00～15:00	当センター	ボランティア	200円	会員・外国人
新春国際交流のつどい2008	1月12日(土) 14:00～16:00	CiC多目的ホール	合同	未定	会員・外国人

国内研修参加者募集

〈横浜国際フェスタ&みなとみらい散策〉

と き 10月27日(土) 夜出発～29日(月)
訪問先 (財)横浜市国際交流協会・かながわ国際交流財団
参加費 23,000円(予定) 定 員 先着30名

受講者募集

国際交流TCAカレッジ& 多文化共生ボランティア養成講座

開講予定日 11/17、12/8、1/26、2/23
(全4回土曜日)

時 間 13:30～15:00 場 所 当センター
教材費 500円 定 員 50人

※11月17日には、NPO法人多言語社会リソースかながわ(MICかながわ)プログラム・アドバイザーの西村明夫氏を招いて開講記念講座を予定しております。

編集後記

「M君とJ君、こんにちは!」「コンニチワ!」母親と3人で教室に入って来ました。この春に父親の仕事の関係で韓国から家族で富山に来ました。M君とJ君も、少しは日本語での会話が出来ようになりましたが、母親はまだ出来ません。

「N君、こんにちは!」母親が日本人と結婚した少し後に中国から富山に来ました。「T君、こんにちは!」T君は、父親の結婚の後に中国から呼び寄せられて来ました。この他にもRさん(中国)、Tさん(中国)、T君兄弟(ブラジル)、M子さん姉弟(フィリピン)など、親の都合で日本にきた子ども達が通ってきます。

ここは、当協会の子どもの日本語グループ「勉強お助け隊」の教室です。木曜日は16:00を過ぎるとボツボツと、そして、日曜日は10:00過ぎから子ども達がやって来ます。米田先生を中心に国語や算数、社会の教科書、プリント、学校の宿題などを、個別に日本語で指導しています。私もお手伝いをさせてもらっています。私たち「勉強お助け隊」ボランティアは、いつも子ども達を待っていてあげます。だれも来ない時もあれば、大勢が来て一人で二人の子ども達を受け持つ時もあります。緊張で能面のような硬い表情の彼らが笑顔を見せるようになった時は、なんともうれしく、そして、ホッとします。「ワァー、スゴイ!よく出来たね」とか「エ〜上手になったね」と頭をなでたり、肩を抱いてあげたりと一緒に喜びます。少しずつ家族のことや、友達のことを自分から話してくるようになり、また、疲れて来たら勉強から話を逸らして茶化す程までになったらもう安心です。

多文化の共生する社会がすすむ中、将来の日本を背負うことにもなるであろう彼らが、力を抜いて安心して話し合ったり、笑ったり、そして、学習にも意欲を出せる、そんな彼らの居場所づくりが必要だと強く感じています。

今できることはなにか、今始められることはなにか、みんなで考えて私たちの出来ることから始めましょう。

広報委員長 岡田昌代